

指標事例について

指標名	主体	種別	概要	指標例
荒川区民総幸福度指標	荒川区	幸福度	<p>「荒川区基本構想」に定める都市像をもとに、「健康・福祉指標」「子育て・教育指標」「産業指標」「環境指標」「文化指標」「安全・安心指標」の6つの分野の指標を設け、それらを束ねるものとして、幸福実感度という指標を設定している。</p> <p>荒川区民総幸福度は、荒川自治総合研究所が研究を行っている。指標案は今後、検証と指標の総合化について検討される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福実感度(自分が幸せだと感じる) ・体の健康(体を休めることができていること) ・買い物の利便性(買い物が便利であること) ・心のバリアフリー(困っている人に声をかけたりすること)
ながくて幸せのモノサシ	愛知県 長久手市	幸福度	<p>「つながり」、「あんしん」、「みどり」を基本的なキーワードに、市民とともに様々な取組を積み重ねていく「幸福度の高いまち」を目指し、まちづくりの一環として、</p> <p>①まちづくりは目指す方向に向かって上手く進んでいるか？</p> <p>②市民生活や地域社会の状況を把握できているか？</p> <p>などの点について、市民の皆様と確認していく「尺度＝道具」が必要ではあるとして「ながくて幸せのモノサシづくり」を進めている。</p> <p>有志市民と職員による「ながくて幸せ実感調査隊」を結成し調査を進めている。</p>	<p>現在モノサシ(指標) づくりのためにアンケート調査、聞き取り調査等を実施している段階である。</p> <p>アンケート調査項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長久手の住み心地について ・健康について ・子育て・教育について ・自然やごみなどの環境について ・人や地域のつながりについて ・防災・防犯について ・福祉について ・文化・生涯学習について ・生活インフラ(交通や買い物生活)について ・まちづくりにおける地域の役割について ・ながくて幸せ実感について

まちづくり白書	大阪府豊中市	まちづくり指標	<p>平成13年度から始まった「第3次豊中市総合計画」において、市民やNPO、事業者、行政が市の将来像を共有し協働する場として「とよなか未来会議」を平成16年2月に発足させた。</p> <p>未来会議では、豊中市のあるべき姿・将来像をまとめ、その実現のために現状や、まちづくりの進み具合を測定するために指標を設定、アンケート調査や統計資料を分析し現状を把握した。その後、重点的に取り組むべき課題について話し合い、活動成果などを「まちづくり白書」にまとめ、市や市民に提言したほか、「とよなか未来シンポジウム」で発信。平成19年1月に活動を終了した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と適度な関係が築けていると思っている人の割合 ・福祉なんでも相談窓口設置数 ・生活道路が安心して通行できることに対する満足度 ・市内に気軽に人が集まることができる場所がある人の割合 ・学びたい時に学ぶ機会が得られている人の割合 ・市内で人に自慢したくなるもの(場所・事柄など)がある人の割合
地域福祉推進指標	大阪府市町村社会福祉協議会連合会	地域福祉指標	<p>地域福祉推進のための評価指標検討・開発委員会を設置し、各社会福祉協議会で取り組んでいる実践に即して、地域福祉に関する評価指標を検討した。</p> <p>社協の進める地域福祉の実践を「くらしをまもる」個別支援と「つながりをつくる」地域支援の2つに分類し、指標例を整理し、「地域福祉推進の指標について考える報告書」にまとめた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援体制の整備、相談支援機能（相談員の配置人数、相談時間帯、アクセス、相談件数） ・ネットワーク機能（ネットワーク会議開催数） ・開発機能（社協として新たな事業創設、地域における新たな福祉活動の創設） ・地域組織化機能（福祉委員の人数、ボランティア協力員の人数） ・コミュニティワークの実践（コミュニティワーカーの配置状況、地域に出向く回数）
県民幸福量を測る指標	熊本県	幸福度	<p>2008年12月に県政運営の基本方針である「くまもとの夢4カ年戦略」を策定し、「くまもとの夢」として「生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住み続けたい熊本」の実現を目指している。実現に向けた基本目標として「県民幸福量の最大化」を図ることに取り組み、県民幸福量を測る指標を作成した。</p> <p>「夢を持っている」「誇りがある」「経済的な安定」「将来に不安がない」の4つの分類と、それらにぶら下がる形で「家族関係」「自然資源」「地域社会のつながり」「住まい」「心身の健康」などの12項目の幸福要因について、36の質問項目を設け、県民アンケート調査による満足度の把握で測定している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事のことで将来の夢を持っていますか？ ・あなたは、地域社会とのつながりを感じていますか？ ・あなたは、今の住まいに快適さやゆとりを感じていますか？ ・あなたは、地域の歴史や文化に誇りを感じていますか？ ・あなたは、必要な所得や収入が得られていると感じていますか？ ・あなたは、こころやからだ健康だと感じていますか？

<p>地域の幸福度を測定する「地域しあわせ風土調査」</p>	<p>issue+design project(*)</p>	<p>幸福度</p>	<p>issue+design プロジェクトによる取組の一つとして、地域の幸福度を測定するオリジナル調査「地域しあわせ風土調査」を、全国15,000人を対象に実施、平成26年8月に結果を発表した。調査は、issue+designと株式会社博報堂、慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科との共同で行われたものである。 秋田県は47都道府県のうち総合で29位。充実度上位項目に「水・空気の質」「地価・家賃」「自然環境」「ものづくりの質」「ゴミ処理施設・制度」、充実度下位項目には「働き口」「娯楽施設・制度」「歴史遺産」「商店街・中心市街地」「飲食・買い物店舗」「公共交通インフラ」「公務員の対応」が挙げられた。 プロジェクトでは同調査を活用し、2014年5月に高知県佐川町で「佐川町第5次総合計画」策定のサポートを行っている。</p>	<p>人が幸せな人生を送るために必要な心構え・気持ち・行動姿勢を「地域のしあわせ5指標-(1)やってみよう指標(2)ありがとう指標(3)あなたらしく指標(4)なんとかなる指標(5)ほっとする指標」と定義し、これらの指標を基に幸福度をスコア化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か、目的・目標を持ってやっていることがある。 ・いろいろなことに感謝するほうだ。 ・自分と他人をあまり比べないほうだ。 ・自分は安全な生活を送っていると思う。
<p>公共交通の「快適性・安心性評価指標」</p>	<p>国土交通省</p>	<p>バリアフリー指標</p>	<p>平成16年3月、公共交通機関の快適性・安心性向上の取組を促進するための方策の一つとして、快適性・安心性評価指標を提案し、首都圏並びに近畿圏の鉄道事業者とバス事業者について計9項目の指標結果を公表した。指標は事業者間比較ではなく、それぞれの十世紀の推移をわかりやすくすることを目的に作られたものとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしく利用できる指標（鉄道のピーク時車両混雑率、ノンステップバス導入率） ・気持ちよく利用できる指標（全自動制御機能を有する冷房装置設置車両率） ・わかりやすく利用できる指標（鉄道ホームでの情報のわかりやすさ、車内での情報のわかりやすさ） ・安心して利用できる指標（駅員への連絡のしやすさ、車内インターホン設置率）

(*) 「社会の課題に、市民の創造力を。」を合言葉に、2008年に始まったソーシャルデザインプロジェクト。行政・市民・大学・企業が参加し、地域・日本・世界が抱える社会課題に対して、デザインの美と共感の力で挑むとし様々なプロジェクトを実施している。阪神・淡路大震災の教訓から生まれた「できますゼッケン」は東日本大震災支援の現場で多くの自治体で活用された。

【考 察】

- ・自治体が独自に指標開発に取り組むものとしては、「幸福度」に関するものが多い。
- ・幸福度では、人がどう感じているかを評価する主観的指標が多く、客観性には乏しい。その反面、地域住民の満足度を見える化するため、住民の関心・理解・納得を得やすい。
- ・孤立防止、近隣コミュニティの維持、人とのつながりや関係性の維持、健康状態の維持、経済的安定の維持など、幸福度に大きく影響を与える要因は、エイジフレンドリーシティ度を測る場合においても同様に、大きな影響力を与えられられる。

【エイジフレンドリー指標を作る目的】

- ・市民の理解を促進し、進むべき方向や目標を共有する。
- ・エイジフレンドリーシティの推進状況が可視化され、客観的に評価することを可能にする。
- ・現在の行動計画に定められた取組だけでなく、新たな取組を掘り起こす。
- ・行政による取組だけでなく、市民、企業、団体などそれぞれの役割が見えやすくする。

【課 題】

- ・主観的指標と客観的指標のバランスをどうするか。（主観指標では、同じ質問でも人によって感じ方が違うのに対し、客観指標では、誰が測定しても同じ結果が得られる。主観的指標例：育てやすいと感じる人の割合、客観的指標例：育児休業制度普及率）